

〔編集復刻版〕

戦後改革期 文部省実験学校 資料集成

全6巻

◎編・解題——水原克敏（早稲田大学教育・総合科学学術院教職研究科特任教授）

*解題は第1巻巻頭に収録

◎体 裁——A4判／上製本／総2、498頁

◎揃定価——本体 150、000円＋税



▲資料14 (1956年7月)

◎配本概要

第2回配本		第1回配本			配本	巻数	収録資料	本体価格	刊行時期
第6巻	資料23～27	第4巻	資料14～18	第3巻	資料10～13	第1巻	資料1～5	本体75、000円＋税	2017年3月刊行
第5巻	資料19～22	第3巻	資料10～13	第2巻	資料6～9	第2巻	資料6～9	本体75、000円＋税	2017年9月刊行
ISBN978-4-8350-8046-8		ISBN978-4-8350-8042-0							

関連図書

水原克敏 編・解題

戦後改革期文部省実験学校資料集成

〔第1期〕

全9巻

第1期には、昭和二六年以前の文部省実験学校の報告書を中心に、関係する実践記録と文部省による調査資料・学習指導要領編修会議・教育課程審議会記録等を含め三五点を収録した。カリキュラム史、教育実践史研究に必須の資料であり、これらによって、戦後改革期の文部省が、実験学校を中心としたような新しい学校教育を創ろうとしていたのか、その内実を把握することができると期待される。戦後改革の教育実践・カリキュラム開発そして教育課程行政の研究に新たな知見を創出した。

第1回配本 第1巻～第3巻（資料1～14）
第2回配本 第4巻～第6巻（資料15～24）
第3回配本 第7巻～第9巻（資料25～35）
体 裁ⅡA4判・上製本・総3、994頁
揃定価Ⅱ本体225、000円＋税
（各配本本体75、000円＋税）

須田将司 解説

戦後新教育「実力の検討」実践資料集

全4巻

戦後新教育の「花形」と言われた「社会科」。戦前以来の報徳教育を土台に形作られた神奈川県足柄上郡福沢小学校の「福沢プラン」は、社会科の創設・推進者の一人であった石山脩平をはじめ多数の研究者が関わり、全国から注目を集めた。当資料集は、戦前期の資料から一九四六年段階の井上喜一郎校長による草稿メモ類、そして一九四八年以降に福沢小学校が作成した『実力の検討シリーズ』等を収録した。社会科に留まらず、多様なテーマを含み独自の教育論を模索していった同校の歩みを通覧できる貴重な資料群である。

体 裁ⅡB5判・上製本・総2、836頁
推薦Ⅱ影山清四郎・梶山雅史
揃定価Ⅱ本体98、000円＋税

〈第1期〉につづき、〈第2期〉を刊行。

初等教育実験学校研究資料第1集から第25集（昭和二七年～三六年発行）、ならびに、昭和二八年度・二九年度研究発表要項を収録。

経験主義教育から系統主義教育への転換を示す重要資料を復刻！

水原克敏 編・解題

〔編集復刻版〕

戦後改革期

文部省実験学校

資料集成

全6巻

〈第Ⅱ期〉

◎体 裁——A4判／上製本／総2、498頁

◎揃定価——本体150、000円＋税

2017年3月刊行開始（全2回配本）

▲資料26 (1954年5月)

研究発表要項

文部省初等中等教育局
初等教育課

不二出版

表示価格はすべて税別

不二出版

T113-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3812-4433
フアクシミリ03-3812-4464
振替001600294084

◎復刻によせて

水原克敏

本資料集成には、昭和二六年学習指導要領改訂以降昭和三三年改訂に至る過程の文部省初等教育実験学校の研究報告書及び研究発表要項を収録した。研究報告書は、初等教育研究資料第1集から第25集まで、かつ研究発表要項は昭和二八年度・二九年度発表のものである。

初等教育資料の内容は、教育課程、国語、算数、理科、社会、音楽、図画工作、家庭、特別教育活動、図書館教育などほぼ全教科・領域に及んでいるが、目立つのは、国語と算数のつまづきをなくして基礎学力を高めるための実験研究で、国語九冊、算数八冊に及んでいる。

また、全教科に共通しているのは、教科内容の習得率を高めるための系統的な内容・方法の研究である。当時としては、かなり詳細に実験データをとりながら、その成果をしっかりと検証して、残った研究課題を析出するなど、二〇一六年現在の研究指定校の実験や検証に比較すると、はるかに信頼性の高い実験研究を進めていることに驚かされる。

この時期の実験学校の成果は、戦後改革期の経験主義教育から系統主義教育への転換を示すもので、教科内容の系統性を確保して能率的で効果的な教育を目指していたことが確認できる。なお、昭和三二年に特設された道徳については、実験学校が指定されていないか、研究報告書は出版されていない。

巻	資料名	出版社	発行年月日
〈初等教育研究資料〉			
第1巻	1 第1集 児童生徒の漢字を書く能力とその基準	明治図書出版	1952(昭和27)年5月10日
	2 第2集 算数 実験学校の研究報告(1)	明治図書出版	1952(昭和27)年6月5日
	3 第3集 算数 実験学校の研究報告(2)	明治図書出版	1953(昭和28)年1月20日
	4 第4集 算数 実験学校の研究報告(3)	明治図書出版	1953(昭和28)年3月5日
	5 第5集 音楽科 実験学校の研究報告(1)	音楽之友社	1953(昭和28)年5月10日
第2巻	6 第6集 児童生徒のかなの読み書き能力	明治図書出版	1954(昭和29)年5月1日
	7 第7集 児童の計算力と誤答	博文堂出版	1954(昭和29)年3月25日
	8 第8集 算数 実験学校の研究報告(4)	明治図書出版	1954(昭和29)年6月1日
	9 第9集 算数 実験学校の研究報告(5)	明治図書出版	1955(昭和30)年6月5日
第3巻	10 第10集 算数 実験学校の研究報告(6)	明治図書出版	1955(昭和30)年10月5日
	11 第11集 国語 実験学校の研究報告(1)	明治図書出版	1956(昭和31)年2月10日
	12 第12集 読解のつまずきとその指導(1)	博文堂出版	1956(昭和31)年2月22日
第4巻	13 第13集 教育課程 実験学校の研究報告	明治図書出版	1956(昭和31)年9月5日
	14 第14集 頭声発声指導の研究—音楽科実験学校の研究報告(2)	教育出版	1956(昭和31)年7月20日
	15 第15集 算数 実験学校の研究報告(7)	明治図書出版	1956(昭和31)年9月5日
	16 第16集 小学校社会科における単元の展開と評価の研究—実験学校の研究報告	光風出版	1956(昭和31)年12月10日
	17 第17集 国語 実験学校の研究報告(2)	明治図書出版	1957(昭和32)年6月10日
	18 第18集 読解のつまずきとその指導(2)	明治図書出版	1956(昭和31)年11月15日
第5巻	19 第19集 漢字の学習指導に関する研究	明治図書出版	1957(昭和32)年6月15日
	20 第20集 国語 実験学校の研究報告(3)	明治図書出版	1958(昭和33)年9月
	21 第21集 色彩学習の範囲と系統の研究—図画工作実験学校の研究報告(1)	博文堂出版	1958(昭和33)年9月5日
	22 第22集 家庭科 実験学校の研究報告(1)	学習研究社	1959(昭和34)年11月15日
第6巻	23 第23集 小学校 特別教育活動の効果的な運営—実験学校の研究報告	光風出版	1960(昭和35)年5月15日
	24 第24集 小学校ローマ字指導資料	教育出版	1960(昭和35)年7月15日
	25 第25集 構成学習における指導内容の範囲と系列—図画工作実験学校の研究報告	東洋館出版社	1961(昭和36)年8月30日
〈文部省初等教育実験学校研究発表要項〉			
26	昭和28年度 (文部省初等中等教育局初等教育課)		1954(昭和29)年5月
27	昭和29年度 (文部省初等中等教育局初等教育課)		1955(昭和30)年5月

目次	
教育課程	家庭
I 単元学習と教科以外の活動の連関より学習の全体計画を見る(昭和27、28年度)	児童の興味と必要と能力の実態に基づく家庭科の指導はどうしたらよいか 東京都豊島区立高南小学校……………123
学習の全体計画をどのようにたてるのが子どもの全体的発達に対して有効か 神奈川県足柄上郡福沢小学校……………1	算数
II 全体計画をどのようにたてるのが子どもの学習に有効か 東京学芸大学付属世田谷小学校……………12	計算における子どものつまずきについて 千葉市立狭見川小学校……………138
国語	学校図書館
I かなの学習指導はどのように進めたらよいか 東京都太田区立久原小学校……………28	I 学校図書館利用指導の体系について 東京都港区立永川小学校……………147
II かなの学習指導はどのように進めたらよいか 神奈川県御所見小学校……………43	II 学校図書館利用指導の体系について 川崎市立富士見中学校……………161
III 読解のつまずきは、どんなところにあるか。それは、どうしたら救えるか 栃木県日光市清滝小学校……………59	
社会	
社会科の学習過程と結びついた評価のしかた 東京都文京区立墨町小学校……………	
音楽	
I 児童発声の実験的研究 宮城県仙台市立南村木町小学校……………	
II 読解能力の発達段階とその指導体系 埼玉県大宮市立大宮小学校……………	
視覚	
I 放送を利用した学習の評価 お茶の水女子大学文教育学部付属小学校……………	
II 視覚教材を利用した学習の評価 東京都千代田区立千代小学校……………	

▲資料27「昭和29年度研究発表要項」(1955年5月)

13. 漢字の正答率と誤字

正答率は、「愛」は、小学校の第4学年では13パーセントの児童が正しく書いたなどの意味をもつ。正答者があって、0.4パーセント以下なら0とした。I—Ⅷは小学校第1—8学年を、Ⅸ—Ⅺは中学校第1—3学年を示す。

誤字	正 答 率 (%)									おもな誤字
	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	
愛		12	61	77	81	83	88			愛愛愛愛愛
悪		2	17	23	72	75	88			悪悪悪悪悪
庄		0	5	13	44	50	75			庄庄庄庄庄
安	32	37	47	63	77	86	89	96		安安安安安
案		3	5	23	45	44	73			案案案案案
暗		9	3	54	74	78	83	92		暗暗暗暗暗
以	3	20	8	22	59	75	70	80		以以以以以
衣		0	27	46	61	70	85			衣衣衣衣衣
囲		1	8	45	59	62	79			囲囲囲囲囲
位		23	39	64	74	73	90			位位位位位
医		24	51	66	68	83				医医医医医
委		3	13	24	49	54	78			委委委委委

▲資料1「児童生徒の漢字を書く能力とその基準」(1952年5月)

ま え が き

この実験学校の研究報告は、昭和25年度における文部省算数科実験学校の研究成果の報告を編集したものである。

実験的研究とはいえ、実際に指導してみたという程度を出ないのが、わが国における一般の現状ではないかと考える。ここにあげている研究は、こどものつまずきの原因を推定しては、これを検証していくという科学的方法によって研究を進めての成果である。研究の成果を見て、これをさしたるものではないと考える人があるかもしれない。しかし、このような小さいことの研究にも、いかにくわしい計画のもとに、実験し、検証することが必要であるかを考えて頂きたい。このような地味な研究のために精進される実験学校に対して、深甚の敬意を表したいと考える。

本書は第I部・第II部及び第III部に分かれている。第I部は、千葉市狭見川小学校の研究の報告を編集したものであり、第II部は、千葉大学付属第一小学校の研究の報告を編集したものである。

第III部は、実験学校研究発表会の際に、山梨県教育庁指導主事弥津忠則氏が発表されたものである。遅進児の指導に役立つと考えたので、この報告にのせることにした。この報告にのせることを心よく承諾して下さいました弥津氏に対し、厚く御礼を申し上げる次第である。

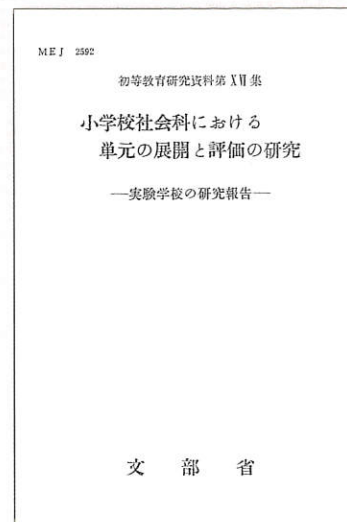
この研究報告が、算数指導についての実験的研究をしていく上に役立てて頂くならば幸であると考えます。

初等教育課 文部事務官 和田 義 信

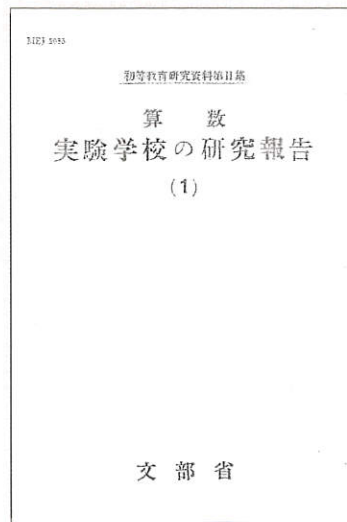
▲資料2「算数 実験学校の研究報告(1)」(1952年6月)



▲資料24 (1960年7月)



▲資料16 (1956年12月)



▲資料2 (1952年6月)